

千葉県印西市

# 天神台遺跡(第11地点)発掘調査報告書

— 不特定遺跡発掘調査助成事業 —

平成15年度

印西市教育委員会



## 例 言

- 1 本書は、千葉県印西市大森字下宿2254-3に所在した、天神台遺跡（第11地点）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。（遺跡コード 09-035）
- 2 調査は、個人宅地造成工事に先行して行われたもので、印西市の委託を受け、千葉県教育委員会及び印西市教育委員会の指導のもと、財団法人印旛郡市文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査は、平成14年7月1日から同年7月16日まで実施した。調査面積は、165㎡である。
- 4 発掘調査は、調査課長加藤修司、課長代理高橋 誠の指導・助言のもと、主任調査研究員仲田鋼太が担当し、整理作業・本書の編集は、調査室長大澤 孝が担当し、主任調査研究員小倉和重の協力を得た。（第1章第2節1については印西市教育委員会生涯学習スポーツ課飯島伸一が執筆した。）
- 5 本書に使用した遺物写真は、杉原 豊氏に依頼して撮影したものである。
- 6 本書に使用した挿図のうち、第1図は平成12年7月21日付、国土地理院作成の2万5千分の1「小林」を、第3図は平成14年12月付、印西市作成の2千5百分の1「印西市地形図」を使用加筆している。
- 7 出土遺物・実測原図・撮影写真等は、印西市教育委員会が保管している。
- 8 調査及び報告書作成に際しては、関係各位並びに多くの方々にご指導・ご協力を戴き感謝の意を表する次第です。

## 凡 例

- 1 本報告書における各遺構番号は、現地発掘調査作業時において使用した番号を一部変更して使用している。  
1号陥し穴→1号土坑 1号土坑→2号土坑 2号土坑→3号土坑
- 2 各遺構の方位・主軸は磁北を示している。遺跡における編西角度は、約6°30'である。
- 3 各遺構に記載している標高値は、東京湾の平均海面を基準としている。
- 4 遺構と遺物の挿図は原則として、下記の縮尺で統一している。  
住居跡 1/80 土坑 1/80 土器 1/3 石器 2/3 拓影図 1/3
- 5 ビット番号の脇に記した数値は、床面からの深さを示す（cm）。
- 6 各遺構・各遺物の観察表等の（ ）内の数値は推定値を示す。また、遺物の出土レベルは原則としてドットを記した全遺物について明記し、出土遺物周辺の床面を0基準として計測値を示した（cm）したがって、床面平均ベルから計測した数値とは必ずしも一致しない。土層断面のKは攪乱を表している。

# 本文目次

序 文

例 言

凡 例

## 第1章 序説

第1節 遺跡の位置と環境

第2節 調査に至る経緯と経過

1 調査に至る経緯

2 調査の方法と経過

## 第2章 検出された遺構と遺物

第1節 住居跡

第2節 土坑

第3節 遺構外出土遺物・遺構当該期外出土遺物

第4節 調査の成果

# 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図

第2図 天神台遺跡第11地点遺構配置図

第3図 遺跡周辺地形図

第4図 1号住居跡実測図

第5図 1号住居跡出土遺物 (1)

第6図 1号住居跡出土遺物 (2)

第7図 1号住居跡出土遺物 (3)

第8図 2号住居跡実測図

第9図 2号住居跡出土遺物

第10図 3号住居跡実測図

第11図 3号住居跡出土遺物

第12図 1号土坑・2号土坑・3号土坑実測図

第13図 遺構外出土遺物・遺構当該期外出土遺物

# 写真図版目次

図版1 調査前状況 (北西より) 表土除去状況 遺構確認状況 (北西より) 遺跡完掘状況 (南西より) 遺跡完掘状況 (南東より) 1号土坑 (陥し穴) 完掘状況 (東より) 2号土坑完掘状況 (北より) 3号土坑完掘状況 (北より)

図版2 1号住居跡精査状況 1号住居跡遺物出土状況 1号住居跡完掘状況 1号住居跡出土遺物 2号住居跡完掘状況 2号住居跡出土遺物 3号住居跡完掘状況 3号住居跡出土遺物

図版3 1号住居跡出土遺物 (1) 2号住居跡出土遺物 (1) 3号住居跡出土遺物 (1)

図版4 1号住居跡出土遺物 (2)

図版5 2号住居跡出土遺物 (2) 3号住居跡出土遺物 (2) 遺構外遺物・遺構当該期外遺物

# 第1章 序 説

## 第1節 遺跡の位置と環境

天神台遺跡は、印西市の北東部に位置する。印西市は、下総台地の北端、北側に利根川、東南側に印旛沼、北西側に手賀沼と水源に囲まれ、洪積台地を開析する小支谷が入り込み複雑な地形を呈している。天神台遺跡は、亀成川を臨む標高約25～26mの台地上に位置する。

天神台遺跡(1)の周辺には、多数・多時期の遺跡が所在し、調査された遺跡も多い。主なものは旧石器時代としては、ユニットの全容が明らかになった木茹跡遺跡、楕円形の環状分布域と付帯する弧状分布域が認められた泉北第3遺跡(38)などが所在し、縄文時代では、草創期の高根北遺跡・地国穴台遺跡、前期の石道谷津遺跡、中期の別所大山遺跡(29)、後晩期を主とする天神台貝塚(13)などが所在する。弥生時代では、後期の集落である竹袋天神台遺跡・大森天神台遺跡(現在は合わせて天神台遺跡)、市城南東部には町田船尾遺跡・向ノ地遺跡などが所在し、鶴塚古墳墳丘下では合わせ口の土器棺が出土している。古墳については、市域の北部に分布しており、後庵山古墳群(8)、印西市最大の円墳を含む道作古墳群、印西市指定文化財の方墳である上宿古墳(7)、県内で最も古い5世紀代の埴輪を出土した鶴塚古墳などがあり、集落跡では、古墳時代前期最終末～奈良・平安時代にかけての駒形北遺跡などが所在する。歴史時代では、7世紀末から8世紀初めの寺院である木下別所庵寺(25)、そこに瓦を供給したと考えられる曾谷ノ窪瓦窯跡(12)、9世紀から10世紀中葉の製鉄関連遺構(鍛冶炉)が検出された曾谷窪遺跡(11)等が所在する。中・近世では、腰曲輪・土塁の確認できる平岡城跡、江戸幕府直轄の小金牧の1つであった印西牧関係の野馬土手などが所在する。

## 第2節 調査に至る経緯と経過

### 1 調査に至る経緯

印西市立印西中学校が位置する台地は、広大な面積を持つ天神台遺跡が所在する。印西中学校の南側、大森宇下宿2245-3に個人住宅を建設することに先立ち、事業者は、平成14年1月24日付けで、埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて印西市教育委員会(以下、市教委)に照会文を提出した。市教委は、当該地域が天神台遺跡として周知されていたため、千葉県教育委員会(以下、県教委)に報告するとともに2月12日付けで事業者に遺跡「有」として回答した。その後、県教委の指導に基づき市教委と事業者の三者間で協議の結果、現状保存が困難なため発掘調査を実施し、記録として保存することとなった。

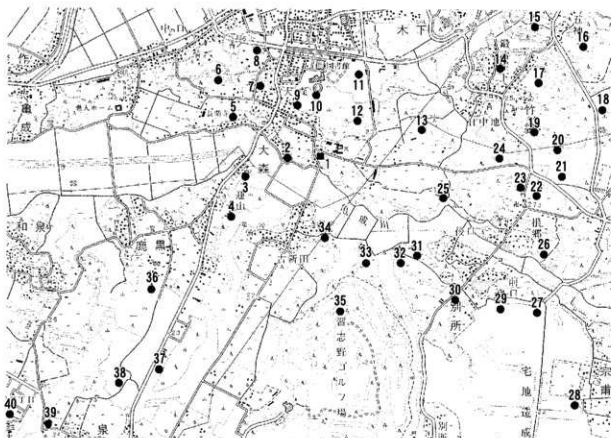
平成14年3月18日に市教委が確認調査を行った結果、5軒の住居跡が検出された。その結果を受け、前述の三者でさらに協議を重ねた結果、住宅建設部分の165㎡を本調査することとなった。市教委は、平成14年度の不特定遺跡発掘調査助成を受け、財団法人印旛都市文化財センター(以下センター)へ発掘調査を委託し、平成14年7月1日から7月16日まで本調査が実施された。

整理・報告書刊行作業についても、平成15年度の不特定遺跡発掘助成を受け実施することとなり、整理作業をセンターに委託した。

### 2 調査の方法と経過

天神台遺跡第11地点は、平成14年3月18日の印西市教育委員会実施の確認調査を経て、平成14年7月1日より7月16日まで発掘調査を行った。調査対象面積は、165㎡であった。

調査方法は、重機で表土除去を行った後、公共座標に基づき、10mごとの基本杭を基準としたグリッドを設定した。遺構は土層観察用のベルトを残し4分法(土坑については半裁)によって行った。遺構内の遺物取り上げに関しては、すべての遺物の平面位置および垂直位置を記録することを原則としたが、時間的制約もあり、覆土上面および攪乱内、小破片、当該期外遺物については遺構ごと一括で取り上げた。15日に遺構の精査作業が終了、遺跡の完掘状況の撮影をし、印西市教育委員会の終了確認を受けた。16日に埋め戻し作業を行い、すべての発掘作業が終了した。



- 1 天神台遺跡 2 八夜台古墳 3 三高台古墳 4 青野古墳 5 大森古墳 6 森内古墳 7 上宿古墳  
 8 後庵山古墳群 9 千宿遺跡 10 大森神屋跡 11 曾谷窪遺跡 12 曾谷ノ窪瓦窯跡 13 天神台貝塚  
 14 新堀込西遺跡 15 井之内作南遺跡 16 五ノ神遺跡 17 新込東遺跡 18 輪荷神和遺跡 19 寺脇古墳  
 20 竹袋ヤシタ遺跡 21 弥次右門台古墳 22 大門遺跡 23 堂後遺跡 24 木戸脇古墳群 25 木下別所廃寺  
 26 池ノ下遺跡 27 宗市北遺跡 28 宗市遺跡 29 別所大山遺跡 30 安楽遺跡 31 見乗寺東遺跡  
 32 見乗寺西遺跡 33 箱山遺跡 34 東台遺跡 35 入山遺跡 36 泉北側第2遺跡 37 割田野馬土手  
 38 泉北側第3遺跡 39 泉新田野馬堀遺跡 40 竈塚群

第1図 遺跡位置図(S=1:25,000)



第2図 天神台遺跡(第11地点)遺構配置図



第3図 遺跡周辺地形図(S=1:25,000)

## 第2章 検出された遺構と遺物

### 第1節 住居跡

今回の調査で検出された住居跡は3軒であり、すべて弥生時代後期の所産である。

#### 1号住居跡（第4図～第7図）

位置 調査区中央やや南西側に位置する。

企画 平面形 隅丸長方形。主軸方向 N-20°-W。規模 5.38×4.77m。

壁高 北壁0.43m、東壁0.42m、南壁0.45m、西壁0.47m。

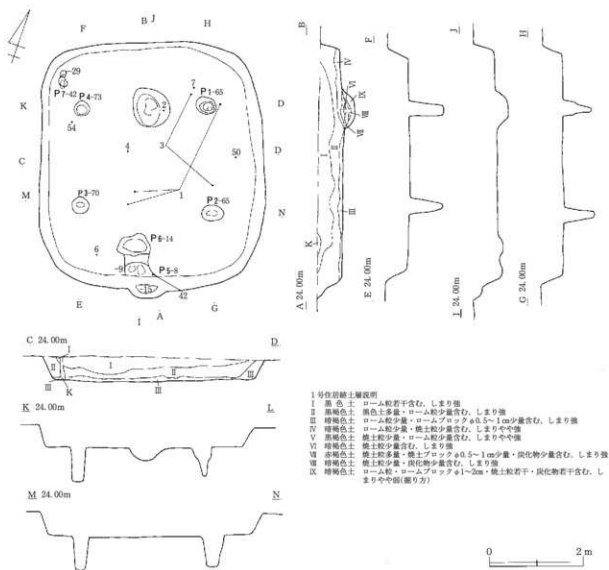
床 ハードローム直床（ハードロームの凹みにソフトロームを充填）。

柱穴 P1～P4は主柱穴、円形あるいは横長の楕円形を呈する。深さは、P1-0.65m、P2-0.65m、P3-0.70m、P4-0.73m。P5は入り口施設に伴うものか。深さは、0.09m。P7は支柱穴か。深さは、0.42、0.29m。

施設 炉址 住居跡の中央北壁寄りに位置する。規模 0.82×0.77×0.28m。掘り込みの約3/5程度が火床面として使用され、比較的よく焼けている。

貯蔵穴 南壁下中央やや西よりに位置する（P6）。平面形 楕円形。規模 0.71×0.48×0.14m。

遺物 遺物量はさほど多くないが、ほぼ全面にわたり出土している。



第4図 1号住居跡実測図





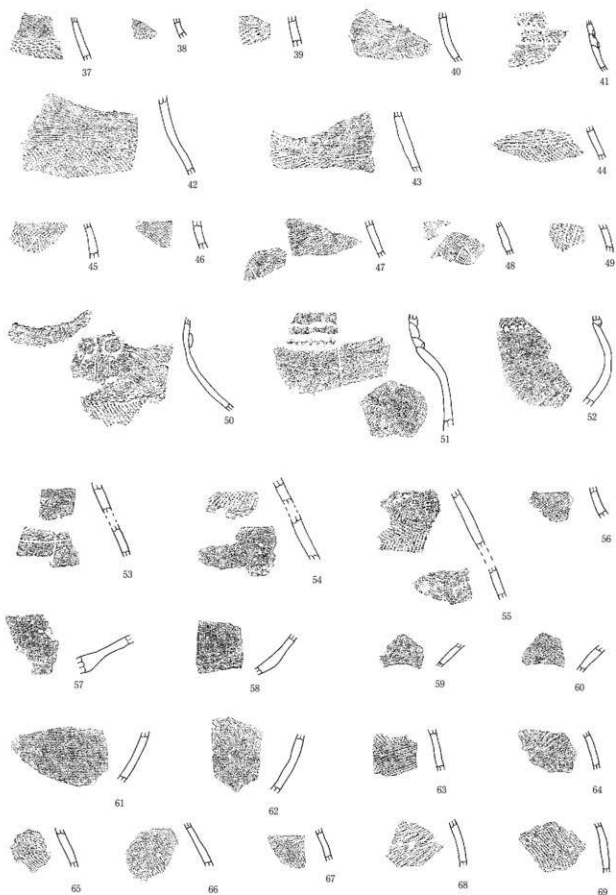
第5图 1号住居跡出土遺物

## 1号住居跡出土遺物 (㊸-外面 ㊹-内面)

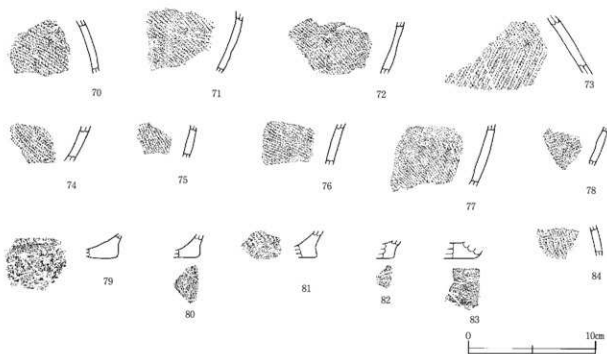
番号	器種	法量	特徴	色調・胎土・焼成	出土レベル	備考
1	壺	口径 7.8cm 現高 15.8cm 胴部最大径 13.4cm	素口縁を呈する。2条交互附加による附加条縄文を施文(口唇部・口縁部・頸部・胴部)。口縁部と頸部の境目に縄文原体による刺突様の押捺・刻目。頸部と胴部の境目には無文部が巡る。	淡褐色 長石・石英多量(粒子粗～細)、細砂粒含、赤色粒子・雲母少量 やや良	+21	図示部分ほぼ全存
2	壺	現高 8.5cm 底径 (6.7cm)	胴部は2条交互附加による附加条縄文施文、一部赤色塗彩残る。底面は無文。	赤暗褐色～淡褐色 汚茶褐色～淡褐色 細砂粒・長石・石英含(微粒子)、雲母・白色針状物少量 良好	+23	図示部分1/2～1/3残存
3	小型壺	口径 (9.9cm) 現高 11.0cm 胴部最大径 (13.6cm)	素口縁を呈する。内外面ともミガキ様のナデ。	淡褐色 長石、細砂粒少量 良好	+18	古墳時代前期 図示部分一部欠損
4	高杯	現高 12.8cm 裾径 (13.2cm)	杯部は、内外面ともナデ調整の後ミガキ。脚部は、内外面とも刷毛目調整。裾部は横ナデ。	橙褐色 赤色粒子多量(粒子粗)、細砂粒少量 良好	+19	古墳時代前期 図示部分一部欠損
5	台付甕	現高 2.6cm 接合部分のみ	造調整後ナデ、内面はその後粗いミガキ様ナデ。	赤褐色汚灰褐色 細砂粒・赤色粒子少量 良好		古墳時代前期
6	高杯 ミニチュア	現高 2.8cm 裾径 3.2cm	手捏ね様を呈する。外面蹴ケズリ後ナデ、内面ナデ調整。	淡褐色～橙褐色 細砂粒・赤色粒子(粒子粗)含、白色針状物少量 良好	+22	古墳時代前期 図示部分一部欠損

番号	部位	特徴 (胎土は特徴的なもののみ)	出土レベル	備考
7	口辺部～頸部	壺or鉢 複合口縁 0段多条単筋LR縄文・RL縄文の羽状構成(口縁) 縄文原体による押捺・刻目(口縁下部) 頸部無文 外面一部赤彩残 淡褐色～橙褐色	+27	
8	口辺部～頸部	素口縁 縄文原体による押捺・刻目(口唇) 0段多条単筋RL縄文(口縁) 頸部無文 外面煤付着 内外面ともミガキ様 淡褐色		
9	口辺部	素口縁 縄文原体による押捺・刻目(口唇) 単筋RL縄文(口縁) S字状結節文(4条) 橙褐色～暗褐色		
10	口辺部～頸部	複合口縁 2条交互附加(口縁・頸部) 赤黒褐色凸暗褐色		
11	口辺部～頸部	複合口縁 2条並列附加?(口唇・口縁・頸部) 竹管による刺突様の押捺・刻目(口縁下部) 外面煤付着 黒褐色～暗褐色		
12	口辺部	素口縁 縄文原体による押捺・刻目(口唇) 直前段多条単筋RL縄文(口唇・口縁) 橙褐色～暗褐色		
13	口辺部	素口縁 縄文原体による押捺・刻目(口唇) 2条交互附加(口縁) 暗褐色		
14	口辺部	素口縁 2条交互附加(口唇・口縁) 外面煤付着 暗褐色		
15	口辺部	輪積口縁 2条交互附加(口唇・口縁、口唇は押捺・刻目様) 輪積1段目～2段目に2個1組の棒状浮文 内外面煤付着 橙褐色～暗褐色 赤色粒子 白色粒子		49と同一個体
16	口辺部	複合口縁? 縄文原体による押捺・刻目(口唇) 0段多条単筋RL縄文(口縁) 棒状浮文の刺突痕あり 橙褐色		
17	口辺部	複合口縁 0段多条単筋RL縄文(口縁) 外面煤付着 赤暗褐色汚橙褐色		
18	口辺部	素口縁 2条交互附加(口唇・口縁) 外面一部赤彩残 内外面煤付着 淡褐色		
19	口辺部	素口縁 2条交互附加(口縁) 押捺・刻目?(口唇) 淡褐色		

番号	部位	特徴 (胎土は特徴的なもののみ)	出土レベル	備考
20	口辺部	素口縁 台付裏の脚部か 莖調整 橙褐色～暗褐色		古墳時代?
21	口辺部	素口縁 篋状工具による押捺・刻目(口唇) 暗褐色 白色針状物		
22	口辺部	素口縁(輪積口縁?) 縄文原体による押捺・刻目(口唇) 暗褐色 白色針状物		
23	口辺部	輪積口縁(指頭による押捺小波状) 淡褐色		
24	口辺部	輪積口縁 外面煤付着 暗褐色		
25	口辺部	複合口縁(内側) 台付裏の脚部か 淡褐色～暗褐色 赤色粒子		古墳時代?
26	口辺部	素口縁 外面煤付着 赤黒褐色～淡褐色～暗褐色		
27	口辺部	輪積口縁(棒状工具による押捺小波状) 赤褐色		
28	口辺部～頸部	輪積口縁 棒状工具による押捺・刻目(口唇) 黒褐色～暗褐色		
29	頸部	輪積痕 外面煤付着 赤暗褐色～暗褐色		
30	頸部	輪積痕 外面煤付着 暗褐色 赤色粒子		
31	頸部～胴上部	7本1組の縹描横走波状文・横走文 2条交互附加 外面煤付着 淡褐色 黒色粒子		
32	頸部	4本1組の縹描横走波状文・横走文 赤淡褐色～暗褐色		
33	頸部	6本1組?縹描横走文 淡褐色～暗褐色		
34	頸部	6本1組?縹描横走文2段 外面煤付着 暗褐色		
35	頸部	S字状結節文数段 赤淡褐色～暗褐色 橙褐色粒子		
36	頸部～胴上部	頸部無文 2条交互附加 淡褐色～橙褐色		
37	頸部～胴上部	頸部無文 S字状結節文(3条) 2条交互附加 外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色 白色針状物		
38	頸部～胴上部	頸部無文 直前段反摺無筋R縄文(不完全摺り戻し) 外面煤付着 赤黒褐色～赤褐色		2住11・12と同一個体か?
39	頸部～胴上部	頸部無文 2条交互附加 灰褐色 赤色粒子		15と同一個体か?
40	頸部～胴上部	頸部無文 単筋RL縄文 橙褐色～茶褐色 赤色粒子		
41	頸部～胴上部	輪積痕 半截竹管による押捺・刻目(各輪下端) S字状結節文 暗褐色～黒褐色		3住6と同一個体
42	頸部～胴上部	頸部無文 S字状結節文(2条) 2条交互附加 外面煤付着 茶褐色	+32	
43	頸部～胴上部	頸部無文 頸部と胴部の境目に縹描沈線 2条交互附加 橙褐色 赤色粒子 内面剥離		
44	頸部～胴上部	S字状結節文(3条) 0段多条単筋RL縄文 内外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色		
45	肩部	縹 縹描縹曲文 0段多条単筋LR縄文縦横施文による羽状構成 橙褐色 黄土色粒子		
46	肩部～胴上部	縹 0段多条単筋LR縄文・RL縄文による羽状構成(沈線区画?) 淡褐色 赤色粒子		
47	頸部～胴上部	縹 S字状結節文(2条)区画 2条交互附加(区画内・縹曲文下) 縹描縹曲文 赤彩 暗褐色～淡褐色 赤色粒子 白色粒子		
48	胴上部	縹 縹描縹曲文区画 0段多条単筋RL縄文・LR縄文による羽状構成(区画内) 赤彩 淡褐色 白色粒子 橙褐色粒子 摩滅著しい		
49	頸部～胴上部	2条交互附加 橙褐色 赤色粒子		15と同一個体
50	頸部～胴上部	頸部中央付近に2個1組の円形浮文 S字状結節文(3条・中央・胴部境目) 2条交互附加(0段多条) 長石・石英粒多量(粒子粗) 橙褐色	+15	
51	頸部～胴上部	輪積痕 棒状工具による押捺・刻目(輪積最下段) 内外面煤付着 橙褐色～暗褐色 赤色粒子		
52	頸部～胴上部	輪積痕 棒状工具による押捺・刻目(輪積最下段) 内外面煤付着 橙褐色～暗褐色 赤色粒子 白色粒子		
53	頸部～胴上部	縹 縹描縹曲文区画 単筋RL縄文・S字状結節文(区画内) 橙褐色 赤色粒子 文様摩滅		
54	胴上部	縹 0段多条単筋RL縄文 S字状結節文 赤彩 淡褐色 赤色粒子 文様摩滅 内面剥離	+9	
55	胴上部	縹 S字状結節文(3条)区画 単筋RL縄文縦横施文による羽状構成(区画内) 縹描縹曲文 摩滅著しい 淡黄褐色～橙褐色 橙褐色粒子 白色粒子		写真2片の位置関係
56	頸部～肩部	縹 0段多条単筋RL縄文 S字状結節文 赤彩? 淡褐色 赤色微粒子		
57	杯部	高杯 無文 淡橙褐色 赤色粒子 内面剥離		
58	杯部	高杯 無文 外面赤彩 淡褐色 赤色粒子 内面剥離		



第6图 1号住居跡出土遺物(2)



第7図 1号住居跡出土遺物(3)

番号	部位	特徴 (胎土は特徴的なもののみ)	出土レベル	備考
59	杯部	高杯 無文 橙褐色 赤色粒子		
60	杯部	高杯 無文 橙褐色		壺の肩部か?
61	胴下部	壺 無文 内面煤付着 淡橙褐色～淡褐色 赤色粒子		
62	胴下部	壺 無文 赤淡橙褐色汚灰褐色 雲母 白色粒子		
63	胴上部	単節R L縄文 縄文の磨り消し 赤黒褐色汚橙褐色 赤色粒子		
64	胴上部	2条交互附加? 縄文の磨り消し 赤黒褐色汚橙褐色		
65	胴上部	2条交互附加 橙褐色 赤色粒子		
66	胴上部	多条単節R L縄文(末端結束痕) 外面煤付着 橙褐色～暗褐色 赤色粒子		
67	胴上部	2条交互附加 暗褐色		
68	胴上部	直前段反撥無節L縄文(不完全擦り灰し) 赤暗褐色汚橙褐色		
69	胴上部	多条単節R L縄文(末端結束痕) 橙褐色 赤色粒子		
70	胴上部	多条単節R L縄文 外面煤付着 赤暗褐色汚茶褐色 長石・石英粒子多量(粒子粗)		
71	胴下部	2条交互附加 赤暗褐色汚茶褐色 赤色粒子 長石・石英粒子多量(粒子粗)		
72	胴下部	2条交互附加 外面煤付着 淡褐色～茶褐色		
73	胴上部	2条交互附加R L系縦横施文よる羽状構成 黒斑 淡黄褐色～茶褐色 長石・石英粒子多量(粒子粗) 内面剥離		2住22と接合 大型土器
74	胴下部	2条交互附加 赤橙褐色汚黒褐色 長石・石英粒子多量(粒子粗)		
75・76	胴下部	2条交互附加 内外面煤付着 橙褐色～淡褐色		
77	胴下部	0段多条単節R L縄文 内外面煤付着 橙褐色～淡褐色		
78・79	胴下部・底部	2条交互附加 底面木炭痕 淡黄褐色 内面・底面剥離		大型土器
80	底部	底面木炭痕 赤橙褐色汚黒褐色		
81	底部	0段多条単節R L縄文 底面木炭痕? 橙褐色		
82	底部	底面木炭痕 橙褐色		
83	底部	底面木炭痕 橙褐色		
84	胴上部	S字状結節文を有する2条交互附加 赤暗褐色汚黒褐色		遺物撮影後追加のため写真なし

## 2号住居跡 (第8図・第9図)

**位置** 調査区中央やや北東に位置する。調査区域外のため3/4強の検出にとどまった。

**企画** 平面形 隅丸長方形。主軸方向 N-32°-W。規模 7.05×5.40m。

**壁高** 北壁0.44m、東壁0.50m、南壁0.54m、西壁0.50m。

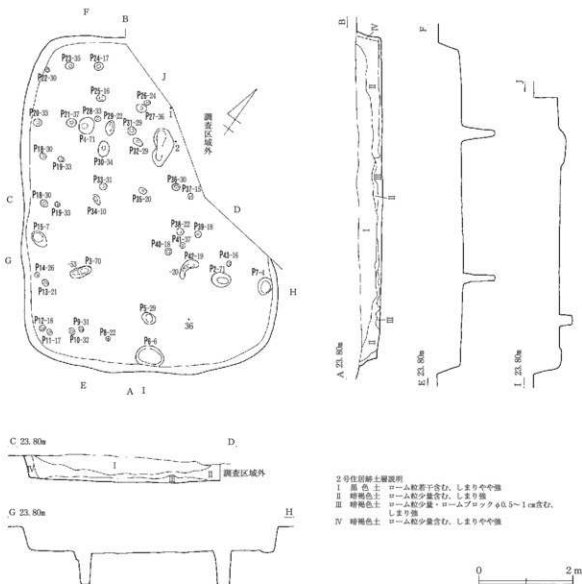
**床** ハードローム直床 (ハードロームの凹みにソフトロームを充填)。

**柱穴** P2~P4は主柱穴、円形あるいは横長の楕円形を呈する。深さは、P2-0.71m、P3-0.70m、P4-0.71m。P5は入り口施設に伴うものか。深さは、0.29m。P7~P43は支柱穴か。深さは、平面図ピット番号の際の数値を参照されたい。

**施設** **炉址** 住居跡の中央北壁寄りに位置する。規模 0.82×0.42×0.15m。掘り込みのほぼ全面が火床面として使用され、比較的よく焼けている。

**貯蔵穴** 南壁下ほぼ中央に位置する (P6)。平面形 隅丸長方形。規模 0.60×0.42×0.06m。

**遺物** 規模のわりに遺物量は少ない。



第8図 2号住居跡実測図



第9图 2号住居跡出土遺物

## 2号住居跡出土遺物 (㊦-外面 ㊧-内面)

番号	器種	法量	特徴	色調・胎土・焼成	出土レベル	備考
1	壺	口径(11.8cm) 現高(25.3cm) 胴部最大径 (12.8cm)	素口縁を呈する。口唇部には、縄文原体による押捺・刻目。口縁部には2条交互附加による附加条縄文L R系・R L系2種類による羽状構成。縄文原体による3段の刺突種の押捺・刻目。頸部には、4本1組の櫛歯状工具による4段の淺弧文が施文される。その下段には区画の横走文が認められる。胴部も同様の原体による羽状構成をとる。	赤褐色～橙褐色 淡褐色 外面に煤付着 長石・石英多量(粒子粗)、 雲母少量 良好	+10	図示部分ほぼ完存 (胴部11/3割残存)
2	甕	現高(8.5cm) 底径(6.8cm)	胴部には、2条交互附加による附加条縄文。底面は木葉痕が残る。	赤暗褐色～黒褐色 淡褐色 長石・石英・小石含 細砂粒少量、赤色粒子 若干 良好	+3	図示部分1/8～1/2残存

番号	部位	特徴 (胎土は特徴的なもののみ)	出土レベル	備考
3	口辺部	素口縁 黒褐色 赤色粒子		
4	口辺部	素口縁 籠状工具による押捺・刻目(口唇) 淡褐色～暗褐色 内面鉄分付着		
5	口辺部	複合口縁 縄文原体による押捺・刻目(口唇) 2条交互附加 外面煤付着 赤褐色～淡褐色		
6	頸部	無文 外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色 赤色粒子		
7	頸部	無文 籠調整目立つ 外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色 赤色粒子		
8	頸部～胴上部	頸部無文 0段多条単節R L縄文 淡褐色		
9	頸部～胴上部	頸部無文 2条交互附加 外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色 赤色粒子		
10	頸部～胴上部	頸部無文 2条交互附加? 赤暗褐色～淡褐色		
11	頸部～胴上部	頸部無文 直前段反燃無節R縄文(不完全燃り戻し) 外面煤付着 暗褐色～淡褐色 長石・石英粒子多量		12と同一個体
12	頸部～胴上部	頸部無文 直前段反燃無節R縄文(不完全燃り戻し) 内外面煤付着 淡褐色 長石・石英粒子多量		11と同一個体
13	頸部～胴上部	頸部無文 S字状結節文(2条・軸縄一部施文される) 外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色		
14	頸部～胴上部	頸部無文 S字状結節文(3条?) 0段多条単節R L縄文 淡褐色 赤色粒子		
15	頸部～胴上部	頸部無文 S字状結節文(2条) 0段多条単節R L縄文 橙褐色 赤色粒子		
16	頸部～肩部	無文 赤彩 淡褐色～茶褐色 白色針状物		
17	頸部	輪積痕 淡褐色～暗褐色 赤色粒子		
18	胴上部	頸部胴部区画沈線 2条交互附加? 縄文の磨り消し 外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色		
19	胴上部	2条交互附加 外面煤付着 暗褐色～黒褐色		
20	胴上部	2条交互附加 外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色		
21	胴上部	2条交互附加 黒斑 淡褐色 赤色粒子		1住15と原体酷似
22	胴上部	2条交互附加L R系縦横施文による羽状構成 黒斑 淡黄褐色～淡褐色 長石・石英粒子多量(粒子粗)		1住73と接合 大型土器
23	胴下部	壺 無文 赤彩 淡黄褐色～淡褐色 灰色粒子 内外面輝目立つ		
24	胴下部	壺 無文 赤彩 暗褐色～黒褐色 二次焼成 赤色粒子 内外面輝目立つ		
25	胴下部	2条交互附加 外面煤付着 淡褐色～橙褐色		
26	胴下部	多条単節R L縄文 外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色		
27	胴下部	多条単節L R縄文 外面煤付着 赤暗褐色～淡褐色		
28	胴下部	2条交互附加 橙褐色～淡褐色 長石・石英粒子多量(粒子粗)		
29	胴下部	直前段反燃無節R縄文(不完全燃り戻し) 内外面煤付着 淡褐色		11と同一個体?



番号	部 位	特 徴 (胎土は特徴的なもののみ)	出土レベル	備 考
30	胴下部	直前段多条単節R.L襷文 外面煤付着 赤褐色汚暗褐色		
31	胴下部	2条交互附加 外面煤付着 赤褐色汚暗褐色		
32	胴下部	2条交互附加結束による羽状襷文 淡黄褐色～淡褐色 長石・石英粒子多量(粒子粗) 内面剥離		大型土器
33	胴下部	2条交互附加 外面煤付着 赤褐色汚暗褐色 赤色粒子		
34	底部	意 無文 赤彩 2次焼成 赤褐色汚暗褐色 白色粒子 内面剥離		
35	胴下部～底部	2条交互附加 底面木葉痕 外面煤付着 暗褐色～黒褐色 赤色粒子		
36	底部	2条交互附加? 底面木葉痕 赤褐色汚黒褐色 赤色粒子	+6	
37	底部	2条交互附加 底面木葉痕 暗褐色～黒褐色		1住出土遺物は腐食性が高いため、同一個体のある2号住として扱う

### 3号住居跡 (第10図・第11図)

位 置 調査区の北西端に位置する。調査区域外のため全体の1/4程度しか検出できなかった。

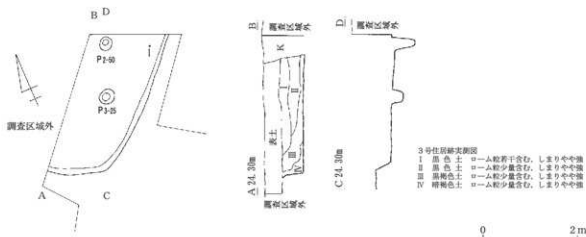
企 画 平面形 隅丸長方形?。主軸方向 N—?—E。規模 不明。

壁 高 東壁0.35m、南壁0.37m。

床 ハードローム直床(ハードロームの凹みにソフトロームを充填)。

柱 穴 P2・P3は主柱穴、ほぼ円形を呈する。深さは、P2—0.50m、P3—0.25m。

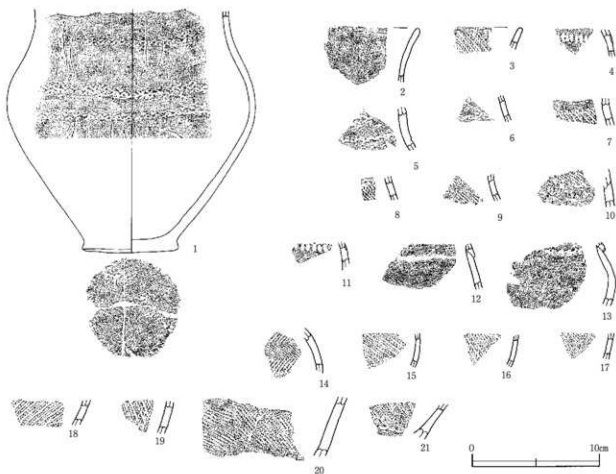
遺 物 全体の1/4程度しか検出できないこともあり、遺物量は少ない。



第10図 3号住居跡実測図

### 3号住居跡出土遺物 (㊦—外面 ㊧—内面)

番号	器 種	法量・遺存度	特 徴	色調・胎土・焼成	出土レベル	備 考
1	甕	現高 19.0cm 底径 7.0cm 胴部最大径 (19.3cm)	頸部と胴部の境目・胴部最大径付近に3条(最下段は2条)のS字状結節文(3段)が施文される。底面には木葉痕残る。内外面とも筈調整の後、かなり丁寧なナデ調整。	赤黒褐色～暗褐色 赤褐色～茶褐色 外面に煤付着 細砂粒含、赤色粒子少量 良好	+3	口辺部欠損。図示部分ほぼ完存
番号	部 位	特 徴 (胎土は特徴的なもののみ)		出土レベル	備 考	
2	口辺部	兼口縁	2条交互附加(口唇・口縁) 淡褐色 赤色粒子			
3	口辺部	複合口縁	2条交互附加(口縁) 橙褐色～淡褐色			



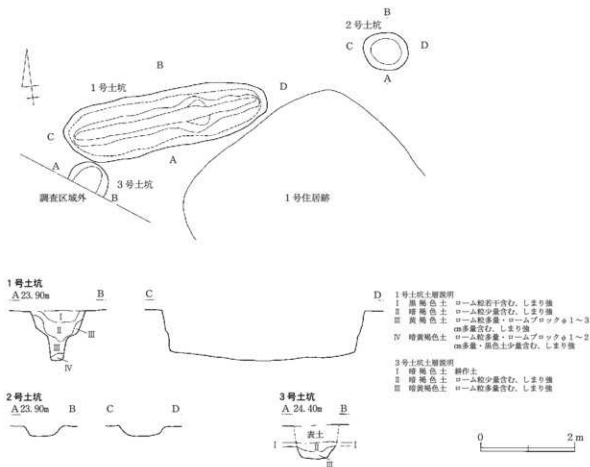
第11図 3号住居跡出土遺物

番号	部位	特徴 (胎土は特徴的なもののみ)	出土レベル	備考
4	肩部	歪 L R 縄文 縄文原体による押捺・刻目(縄文下堀) 淡褐色 内外面剥離 赤色粒子		鉢形土器か
5	頭部～胴上部	S 字状結節文(5条?) 外面煤付着 橙褐色～淡褐色 長石・石英 粒子多量		
6	頭部	S 字状結節文(2条?) 橙褐色～暗褐色		1住41と同一
7	頭部～胴上部	頭部無文 2条交互附加 暗褐色～淡褐色 長石・石英粒子多量		
8	頭部～胴上部	頭部無文 2条交互附加 外面煤付着 昏暗褐色汚淡褐色		15と縄文原体酷似
9	頭部～胴上部	頭部無文 2条交互附加 昏橙褐色汚暗褐色 赤色粒子		
10	肩部～胴上部	歪 0段多条単節 R L 縄文 S 字状結節文(3条?) 赤彩? 淡褐 色 赤色粒子 内外面剥離		
11	頭部～胴上部	縄文原体による押捺・刻目 昏橙褐色汚淡褐色		
12	頭部～胴上部	輪積痕 外面煤付着 橙褐色～淡褐色		
13	頭部～胴上部	輪積痕 半截竹管? による押捺・刻目(輪積下堀) 内面煤付着 淡 褐色 赤色粒子		
14	胴下部	0段多条単節 L R 縄文・R L 縄文による羽状構成 内面ミガキ様 淡褐色 赤色粒子		
15	胴下部	2条交互附加 外面煤付着 昏暗褐色汚淡褐色		8と縄文原体酷似
16	胴下部	2条交互附加 外面煤付着 昏暗褐色汚橙褐色 灰色粒子 内面剥 離		
17	胴下部	2条交互附加 昏淡褐色汚橙褐色 長石・石英粒子多量		
18	胴下部	2条交互附加 橙褐色 長石・石英粒子多量(粒子粗)		
19	胴下部	2条交互附加(L R 系縦横織文による格子状) 淡褐色 長石・石英 粒子多量(粒子粗)		
20	胴下部	多条単節 R L 縄文 外面煤付着 淡褐色～橙褐色 白色粒子		
21	胴下部	2条並列附加 橙褐色 白色粒子 灰色粒子		

## 第2節 土 坑

調査区の西側，1号住居跡の北側以下に以下の3基が検出された。(第12図)

遺構番号	平 面 形	規 模			主 軸 方 向	備 考
		主軸(長軸)	× 短軸	× 深さ(m)		
1	長楕円形	4.35	× 12.5	× 1.07	N-85°-E	陥し穴
2	円形	0.97	× 0.81	× 0.22	N-64°-W	
3	円形?		× 0.87	× 0.32	N-40°-E?	1/2の検出



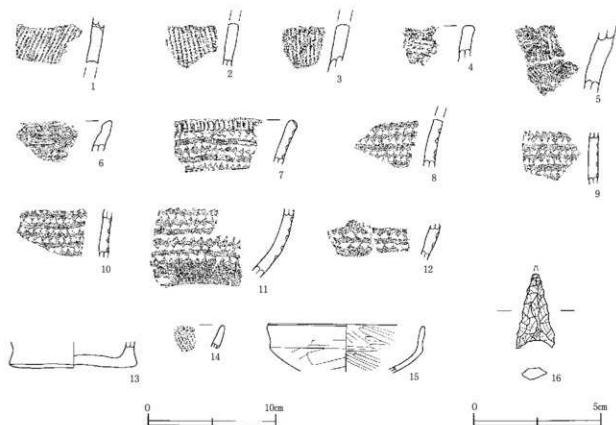
第12図 1号土坑・2号土坑・3号土坑実測図

### 第3節 遺構外出土遺物・遺構当該期外出土遺構

遺構当該期外から出土した遺物は以下のとおりである。(第13図) (㊸-外面 (㊹-内面)

番号	器種	法量・遺存度	特 徴	色調・胎土・焼成	出土レベル	備 考
13	浅鉢?	底径 (11.8cm) 現高 25.3cm	やや上げ底状を呈し、外側に張り出す。外面の整形はやや雑。内面ミガキ。 7～12に伴う底部と考える。	橙褐色 砂粒・赤色粒子含 良好	1住覆土	縄文前期後半 図示部分1/3残存
15	杯	口径(12.1cm) 現高 3.7cm	口縁部は内外面横ナデ。体部外面鋭ケズリ後ミガキ。内面ミガキ。内外面ともミガキ後黒色処理。	細砂粒含 良好	2住覆土	古墳時代後期 図示部分1/6残存
16	石鏝	先端欠損。現長2.9cm、幅1.5cm、厚0.6cm。重量1.9g。石材：チャート。			1住覆土	縄文

番号	部 位	特 徴 (胎土は特徴的なもののみ)	出土レベル	備 考
1	胴部	斜走する単節R L縄文 赤褐色～暗褐色 早期燃糸文系土器	1住覆土	縄文早期(井草式)
2	胴部	縦走する単節R L縄文 淡褐色 早期燃糸文系土器	1住覆土	縄文早期(井草式)
3	胴部	縦走する筋条体条痕文 赤褐色～暗褐色 早期燃糸文系土器	1住覆土	縄文早期(井草式)
4	口辺部	口縁に向けて器厚減 口唇部断面平坦 内外面無文 黒褐色 繊維多量	1住覆土	縄文前期(黒浜式)
5	胴部	11mm器厚 外面平滑なナデ整形 内面凹凸顕著 淡褐色～黒褐色 繊維多量	1住覆土	縄文前期(黒浜式)
6	口辺部	口縁内側に凹縁が巡る有段口縁 外面は凹凸に富み横位のナデ整形 外面煤付着 橙褐色 赤色粒子	2住覆土	縄文前期
7～10	口辺部	外反する口縁 外側ぎ状の口唇端部に刻目 貝殻復縁を用いたロッキング手法による三角文(横位・多段) 内面ミガキ整形痕 赤褐色～暗褐色～暗褐色 淡黄褐色 赤色粒子	1住覆土	縄文前期 (浮島Ⅲ式)
11・12	胴下部	外側に膨らみながら底部に至る 貝殻復縁を用いたロッキング手法による三角文(横位・多段) 外面部分的縦位のミガキ整形痕 内面ミガキ整形 橙褐色～淡褐色 赤色粒子	1住覆土	縄文前期 (浮島Ⅲ式)
14	口辺部	複合口縁 多条単節R L縄文(口唇・口縁) 縄文原体による押捺・刻目(口縁下縁) 外面煤付着 暗褐色～暗褐色	表採	弥生後期



第13図 遺構外出土遺物・遺構当該期外出土遺物

## 第4節 調査の成果

天神台遺跡は、過去数回にわたる発掘調査が実施され、今回の調査は、遺跡の第11地点に当たる。

過去の調査では、縄文時代～奈良・平安時代の遺構・遺物が検出・出土しているが、今回の調査では、弥生時代の竪穴住居跡3軒、縄文時代の土坑3基が検出された。遺物については、縄文時代～奈良・平安時代まで出土している。

本節では、弥生時代の遺構・出土遺物について簡単にまとめ調査の成果としたい。

過去の調査を含め、天神台遺跡では、弥生時代の竪穴住居跡が、30軒近く検出されている。各調査地点が離れていることもあり、大規模な当該期の集落跡の可能性を示唆してきている。今回の調査では、重複なく3軒の竪穴住居跡が検出されているものの、僅少な出土遺物からみても3軒同時に存在していたということはいえない。

弥生時代の遺構は、竪穴住居跡3軒のみである。1号住居跡のみ完掘できたが、他は調査区外に遺構がかなり未完掘である。1号住居跡は、規模も平均的であり、本地域の当該期の特徴的な遺構であるが、入り口施設に伴うPitが壁を張り出すように掘られている稀少な例である。2号住居跡は、3軒の中で最も規模の大きい遺構であり、かなり縦長の隅丸長方形を呈する。規模の大きな住居跡ではよくみられる小Pitが、本住居跡においても主柱穴の外側から壁際のスペースに多数検出された。多くの例は、深さが5～10cm程度の浅いものである（壺・甕等を据え置いたものか？）が、本例は20cm～30数cmのPitが多くを占めていることが異なる点である。3号住居跡は、1/4程度しか精査できず情報量が少ない。検出された2個のPitが主柱穴であれば、かなり規模の小さな住居跡であろう。全体的には、平面形、炉址に向かって緩やかに傾斜する床面、横長楕円の主柱穴、貯蔵穴の位置など、北総地域に特徴的な形態を有する住居跡である。

出土遺物は、ほとんどが土器である。住居跡の掘り込みが平均40cm程度あるにしては遺物量が少ない。1号住居跡出土遺物は、ほとんどが床面から20cm以上浮いた状態。縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺物が混在し出土するという状況であり、住居跡の時期を決定付ける遺物が少ない。また、2号住居跡出土遺物・3号住居跡出土遺物との接合や同一固体である遺物が存在する。壺・甕・鉢・棺？、素口縁・複合口縁・輪積口縁、頸部飾描文、甕描沈線文、口唇部の押捺・刻目および口縁部下端・輪積痕下端の押捺・刻目（縄文原体・棒状工具・半截竹管・筥状工具・竹管）、輪積み痕上に縄文施文、縦横施文羽状・2種原体羽状・結束羽状、円形浮文、棒状浮文、縄文の磨り消し、縄文原体は0段多条条節・直前段反燃無節・2条交互附加・S字状結節文・細縄文などがあり、時期的にも大きな幅を持つ。2号住居跡出土遺物は、頸部飾描文・長胴の壺、底面に木炭痕が残る2条交互附加の甕、素口縁の土器が目立つ。縄文原体は、2条交互附加が主体であるが、直前段反燃無節・0段多条条節・S字状結節文・羽状構成（結束羽状あり）など、内容もバラエティに富む。3号住居跡出土遺物は、頸部S字状結節文施文の甕形土器、輪積痕の甕、縄文原体は、S字状結節文・0段多条条節・2条並列附加・細縄文・羽状構成など僅かに見られるが、2条交互附加の附加条縄文主体となっている。このように弥生時代の遺物だけを見ても、時期差が認められ、器種・文様等もバラエティに富む。

今回の住居跡3軒の時期を考えると、同時に存在したとは考えられない。2号住居跡・3号住居跡の出土遺物が1号住居跡に廃棄されていることと、2号住居跡・3号住居跡の出土遺物の内容を考え合わせると、新旧関係は、1号住居跡（中期後葉・末葉）→2号住居跡（中期末葉～後期前葉）→3号住居跡（後期後半）と考えるのが妥当と思われる。

天神台遺跡の弥生時代の集落は、過去の当遺跡調査例からみても、後期後半が主体であるが、出土遺物の内容、文様構成、縄文原体、所謂南関東系土器・北関東系土器の比率等をもみても時期差を考慮するを得ない。期間は、中期後葉・末葉から後期末葉までが考えられる。現状では、短期間の大規模な集落というよりは、中規模から小規模の集落が長期間・数回にわたり台地上に展開・営まれていったと考えられる方が妥当であろう。その状況が明らかになるには、今後の発掘調査の成果が待たれるところである。

### <参考文献>

- 『千葉県印旛郡印西市天神台遺跡発掘調査報告書』 財団法人印旛郡市文化財センター 1987
- 『千葉県印旛郡印西市天神台・ヤジタ遺跡発掘調査報告書』 財団法人印旛郡市文化財センター 1991
- 『千葉県印西市天神台遺跡』 財団法人印旛郡市文化財センター 2000

図版 1



調査前状況(北西より)



表土除去状況



遺構確認状況(北西より)



遺跡完掘状況(南西より)



遺跡完掘状況(南東より)



1号土坑(陥し穴)完掘状況(東より)



2号土坑完掘状況(北より)



3号土坑完掘状況(北より)



1号住居跡精査状況



1号住居跡遺物出土状況



1号住居跡完掘状況



1号住居跡出土遺物



2号住居跡完掘状況



2号住居跡出土遺物



3号住居跡完掘状況



3号住居跡出土遺物



1号住居跡出土遺物(1)

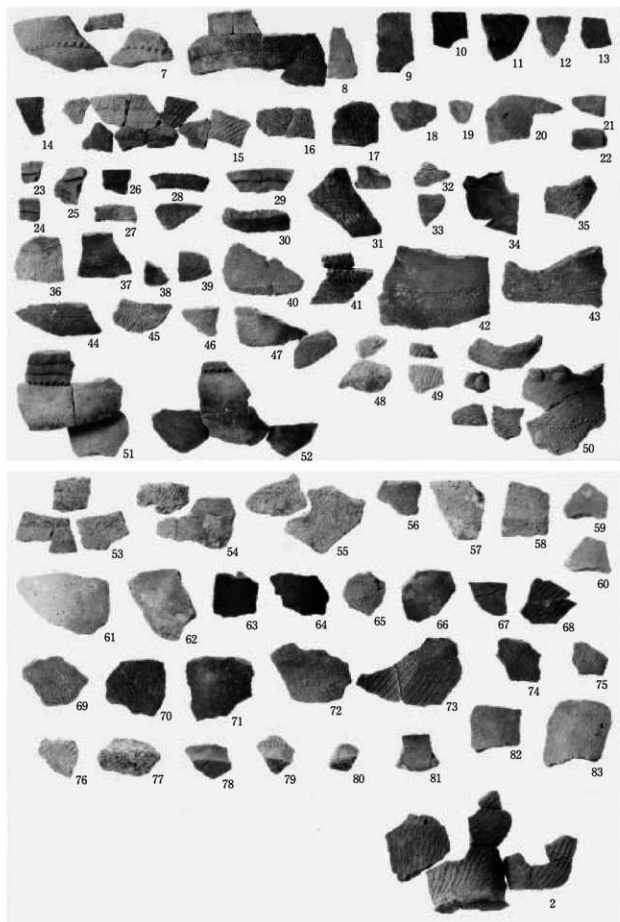


2号住居跡出土遺物(1)



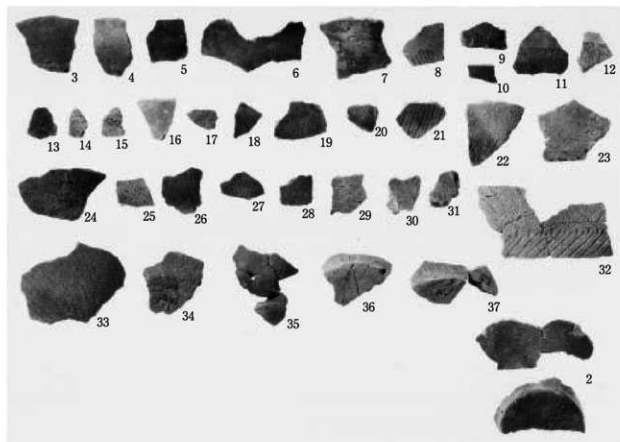
3号住居跡出土遺物(1)



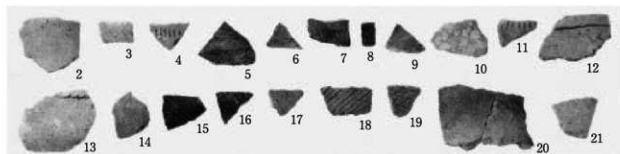


1号住居跡出土遺物(2)

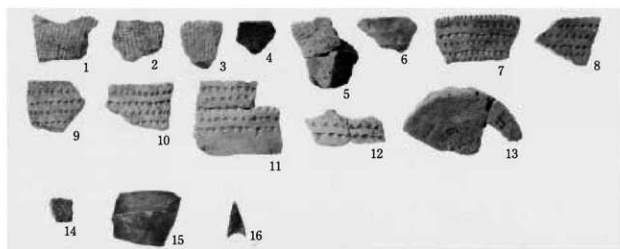
图版 5



2号住居跡出土遺物(2)



3号住居跡出土遺物(2)



遺構外遺物・遺構該当期外遺物

## 報告書抄録

ふりがな	ちばけんいんざいしてんじんだいいせき(だい11ちてん)はつくつちょうさほうこくしよ									
書名	千葉県印西市天神台遺跡(第11地点)発掘調査報告書									
副書名	不特定遺跡発掘調査助成事業									
巻次										
シリーズ名										
シリーズ番号										
編集者名	大澤 孝									
編集機関	印西市教育委員会									
所在地	〒270-1396 千葉県印西市大森2364-2 TEL.0476-42-5111									
発行年月日	西暦2004年3月26日									
所収遺跡名	地点名	コ ー ド		所 在 地	北 緯	東 経	調査期間	調 査 積	調査原因	
		市町村	遺跡							
天神台遺跡	第11地点	12231	09-035	千葉県印西市 大森字下宿 2254番	35° 49′ 40″	140° 08′ 47″	2002.07.01 ) 2002.07.16	165.00㎡	個人住宅 建設に伴 う	
所収遺跡名	地点	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
天神台遺跡	第11地点	集落跡	縄文時代	陥し穴 土坑	1基 2基	縄文土器、石鏃				
			弥生時代	竪穴住居跡	3軒	弥生土器				
						土師器片、須恵器片				

千葉県印西市天神台遺跡(第11地点)発掘調査報告書  
—不特定遺跡発掘調査助成事業—

平成15年3月22日 印刷

平成15年3月26日 発行

編集・発行 印西市教育委員会

〒270-1396 千葉県印西市大森2364-2

印 刷 三 陽 工 業 ㈱